



黎明期の血統（9）

II. ファミリー

8週間にわたってサイアー・ラインについて述べてきたが、今週から「ファミリー」に移りたい。

ファミリーの数はサイアー・ラインと違って非常に多く、すべてに触れていたのではきりがない。そこで、特に重要なと思われる2つの系統に絞りこみ、それらが血統全体にどう影響を与え、進化へと導いていったかを説明したい。前回までの「サイアー・ライン」は「ファミリー」と「配合」を解説するための下地、と言えなくもない。

★ オールドモロッコメア Old Morocco Mare 系

黎明期の血統に決定的な影響を与えたという点で、この牝系に優るものはないだろう。Old Morocco Mare の母は6号族の根幹牝馬オールドボーラードペッグ Old Bald Peg、父は輸入種牡馬のロードフェアファックスズモロッコバルブ Lord Fairfax's Morocco Barb。母が根幹牝馬、父が輸入種牡馬ということで、もちろんそれ以前の血統はわからない。1600年代の後半に生れたと推察される。

★ Old Morocco Mare 系 [F 6]

Old Morocco Mare (f. Lord Fairfax's Morocco Barb)

Spanker (m. Darcy Yellow Turk)

Y. Bald Peg (f. Leedes's Arabian)

Bay Peg (f. Leedes's Arabian)

Basto (m. 1702. Byerley Turk) ……クラブ Crab とスニップ Snip (兄弟) の母の父

Fox (m. 1714. Clumsey) ……ターター Tartar (ヘロド Herod の父)、スナップ Snap の母の父

Spanker Mare (f. 16... Spanker)

Cream Cheeks (f. Leedes's Arabian)

Betty Leedes (f. Old Careless)

Flying Childers (m. 1715. Darley Arabian) ……Snip (Snap の父) の父、Herod の母の父の父

Bartlet's Childers (m. 1716. Darley Arabian) ……エクリプス Eclipse の3代父

Akaster Turk Mare (f. 17... Akaster Turk)

Roxana (f. 1718. Bald Galloway)

Cade (m. 1734. Godolphin Arabian) ……マッヂュム Matchem の父

Jigg (m. 1705. Byerley Turk) ……Herod の3代父、Matchem の母の父の父

Charming Jenny (f. 17... Leedes's Arabian)

Fox Cub (m. 1714. Clumsey) ……マースク Marske (Eclipse の父) の3代母の父

一見するとただの牝系図だが、よく見るとその異様さ、影響力の凄まじさが解る。

Old Morocco Mare の娘スパンカーメア Spanker Mare は近親相姦の産物である。Spanker Mare の父スパンカー Spanker は、Spanker Mare の兄でもある。つまり Old Morocco Mare は、自身の息子との交配によって Spanker Mare

栗山 求

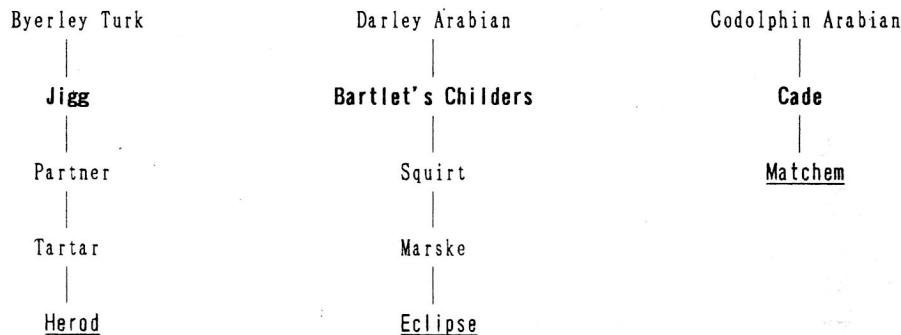
を産んだことになる。

フランスの名生産者マルセル・ブサックが強度のインブリードを重ねることによって成功したのは有名な話だが、それでも 2×2 (凱旋門賞馬コロネーション Coronation) が限度である。歴史的にみて 2×2 つまりある血脉が 50% を占める配合は、有名なところではエルバジエ Herbager の母フラゲット Flagette や合衆国の名種牡馬アルティマス Ultimus など、ごくまれにではあるが見かけることができる。しかし、 2×1 という配合はほとんど例がない。

驚くべきインブリードによって生産された Spanker Mare は、その直系の子孫からサラブレッドの父系を語る上でなくてはならない 3 頭の種牡馬を送る。

ジグ Jigg (Byerley Turk 系)、パートレッツチルダーズ Bartlet's Childers (Darley Arabian 系、その全兄フライアーチルダーズ Flying Childers も名種牡馬)、ケード Cade (Godolphin Arabian 系) の各馬である。

これらを図に描くと以下のようになる。



サラブレッドの父系として生き残っている 3 つのラインは、始祖種牡馬の 2 代目に揃って「Old Morocco Mare 2×1 」の洗礼を受けている。「なぜ 200 頭近い始祖種牡馬のうちこの 3 つだけが生き残ったのか」という謎に対し、説得力のある解答はなく、強いて挙げれば「偶然」や「運」といったものに落ち着くだろう。しかし、この図からある程度その理由を推理することができる。つまり、強度のインブリードによって得られた異様な活力がそれぞれの系統を特別なものにしたのだ、と。上の図を見るかぎり「サラブレッドの父系は 3 つ」という常識は覆される。「Old Morocco Mare の一系統」と言い換えた方が適切であろう。

Old Morocco Mare のファミリーで重要なのは Spanker Mare だけではない。ヤングボールドペッグ Y. Bald Peg も無視できない働きをしている。

Y. Bald Peg (父リーデスズアラビアン Leedes's Arabian) は Spanker Mare の半姉。その娘 Bald Peg は、母と同じく Leedes's Arabian を父に持つ。つまり Y. Bald Peg は、自身の父との交配によって Bay Peg を産んだことになる (Leedes's Arabian の 1×2)。こうした配合は Spanker Mare 同様、激しい遺伝的活力を生む。

Bay Peg は、バスト Basto とフォックス Fox という 2 頭の種牡馬を産む。

Basto (Byerley Turk 系) は、クラブ Crab (Alcock Arabian 系) とスニップ Snip (Darley Arabian 系) の兄弟の母の父になる。一方 Fox (Darcy White Turk 系) は、ターター Tartar (Byerley Turk 系、Herod の父) とスナップ Snap (Darley Arabian 系) の母の父になる。それぞれ種牡馬の父としては芳しくなかったが、このように「母の父」として成功を収めた。それは短期的な成功にとどまらず、後々まで影響を与えるほど強烈なものだった。

ここに挙げられた馬の重要性は、2 つ目のファミリー、カーウェン・ベイ・バルブ・メア Curwen Bay Barb Mare の紹介の後に明らかにしたい。

黎明期の配合の特徴を一言で表現すれば「インブリードの繰り返し」であり、もちろん「アウトクロス」ではない。なぜならアウトクロスが有力だとすれば、いつまでもアラブやターキーをはじめとする輸入馬の流入は止まらなかつたはずで、内国産馬の質向上はもちろんサラブレッドという種の成立もありえなかつたはずである。

現代のサラブレッドは長年にわたる淘汰によって均質化し、各馬の能力のばらつきは小さくなっている。それに比べると当時は「優れた馬」と「そうでない馬」との差が大きかった。それこそ上等な輸入アラブから馬車馬まで繁殖に供されていたからである。こうした状況で走る馬を生産しようとした場合、優れた血を単純にインブリードさせることができがもつと手っ取り早く効果的だった。Old Morocco Mare のケースはその極端な例といえる。

1×2、2×1という配合は現代から考えるといかにも異様だが、英国の競馬評論家ピーター・ウィレットはその著書『THE CLASSIC RACEHORSE』のなかでこう述べている。革命的な成果を挙げた18世紀の牛や羊の品種改良がそうであったように、当時の馬産家たちは繁殖牝馬の能力向上のためなら近親交配をためらわなかった、と。事実、当時の血統表を見ると、2×2、2×3といった現代ではほとんど見ることのできないインブリードが頻繁に試みられていたことがわかる。

血脉が多様化し、競走馬の能力が均質化した現在では、強度のインブリードを施したとしても、その効果を昔ほどには期待できないかもしれない。成熟した血脉のなか

では、アウトクロスやアウトブリードなどその他の手法も有効なのである。

ただ、現在のアメリカのように血脉の多様化が極端に進むと、いずれ固定化の重要性も再認識されることだろう。サラブレッドの配合の歴史というものは、長い目で見ると「固定化」と「多様化」の繰り返しであり、この間を振り子のように往々たり来たりしながら、種全体として徐々に前進していくのだと思われる。

強度のインブリードを試す場合、クロスさせる血脉を慎重に選ぶことが第一で、この選択を正確に行い全体の配合が合えば、さほど良血とはいえない馬からも、優秀な産駒を得られる可能性がある。考えてみれば日本のリーディング・サイアーとして長く君臨しているノーザンテーストは、レイディアンジェラ Lady Angela 3×2である。生れた仔が牝馬であれば、肌馬として大きな成功を収めるかもしれない。

サラブレッドは人間によって徹底的に管理された動物であり、したがって配合のなかに人間の常識観、倫理観が投影され、強いインブリードがタブー視される傾向があるのは当然である。しかし、もともと野生の馬は数頭の群れのなかでそうしたことを繰り返しているわけであり、その方が自然であるとの見方もできる。基本的に強い馬をつくるためであれば何でもすべきで、人間の常識観や倫理観によってその方法が規定されるべきではない。

これ以降の競走馬生産は、Old Morocco Mare の子孫を中心に展開されていった。
(続く)

5代目までに生じたクロス
Spanker 3 * 4 (母系)
Old Morocco Mare 4 * 4 * 5 (母系)

近親
1 Flying Childers (全兄) 1715

Bartlet's Child. 牡 1716 鹿			
Darley Arabian 1700			
Old Careless	Spanker Barb Mare	Darcy Yellow Tu. Old Morocco Mare	Lord F.M. Barb Old Bald Peg
Betty Leedes	Leedes's Arabian		
Cream Cheeks	Spanker Mare	Spanker Old Morocco Mare	Darcy Yellow Tu. Old Morocco Mare
			Lord F.M. Barb Old Bald Peg

Cade

牡 1734 鹿

5代目までに生じたクロス
なし

近親
1 Lath

(全兄) 1732

Godolphin Arabi. 1724 黒鹿			
Bald Galloway	St.Victor's Barb		
Roxana 1718 黒	Grey Whynot	Whynot Royal Mare	Fenwick Barb Royal Mare***
Akaster T.Mare 17..	Akaster Turk		
	Cream Cheeks	Leedes's Arabian Spanker Mare	Spanker Old Morocco Mare

Jigg

牡 1705

5代目までに生じたクロス
Old Morocco Mare 2 * 3 (母系)

近親
1 Cream Cheeks (姉)
2 Fox Cub (甥) 1714

Byerley Turk 1684			
Spanker	Darcy Yellow Tu.		
Spanker Mare 16..	Old Morocco Mare	Lord F.M.Barb Old Bald Peg	
Old Morocco Mare	Lord F.M.Barb		
	Old Bald Peg		

Fox

牡 1714 鹿

5代目までに生じたクロス
Leedes's Arabian 2 * 3 (母系)

近親
1 Basto (兄) 1702

	Darcy White Turk		
Old Hautboy	Royal Mare***		
Clumsey			
Pet Mare	Sedbury Royal M.		
Leedes's Arabian			
Bay Peg	Leedes's Arabian		
Y.Bald Peg	Old Morocco Mare	Lord F.M.Barb Old Bald Peg	